

18 山之手自主防犯会（豊田市）

地域自主防犯活動活発化事業

実施結果報告書

1 団体名	山之手自主防犯会
2 事業名	子供・女性の安全対策事業
3 事業実施 結果	<p>〈事業実施〉</p> <p>はじめに、応募目的は、山之手自治区の自主防犯の意識高揚と子育て世代（子供を含めて）の自主防犯に対する、積極的な参加である。</p> <p>あらためて、自治区の防犯意識について、調べてみた。地域の防犯意識はあまり高くないことに気づき、意識を高めるためにどのような活動をするかを考え、(1)～(5)を実施した。</p> <p>(1) 防犯についての意識改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている常時活動の青パト巡回を防犯も意識して、子供たちの下校時間や公園で遊び帰宅する頃の時間帯も巡回するように計画を見直した。人手不足であったので青パト活動への参加者を再募集した。 ・活動している様子が分かるように、巡回車のマグネット板を反射材の入った物にして目立つようにした。 ・暗くなっても公園で遊んでいる子には、帰宅を促した。 ・青パトの運営は、生活安全部（自治区組織）が中心に行っている。部会と話し合いをして、協力して巡回活動の活性化に努めた。 <p>(2) 子育て世代へのアプローチ</p> <p>子育て世代の防犯意識を高めるための行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「秋の文化フェスタ」自治区行事の中に「防犯コーナー」を設けることで、防犯について考える機会を作った。 ・親子で防犯について考えてもらうために、幼児と小学校1～3年生は塗り絵、小学校4～6年生は防犯標語を考えてもらった。（塗り絵原稿作成、標語カードの作成、掲示用ボード製作） ・行事当日に塗り絵や標語を掲示して、来場者に披露することで、防犯について意識を高めた。



〈青パト募集のチラシ〉



〈青パト反射板〉



〈塗り絵、標語の提出〉



〈塗り絵、標語を掲示〉

また、優秀作品は表彰し横幕を作り公園へ掲示した。参加賞として、合い言葉「いかのおすし」が入ったティッシュを配付した。



〈優秀賞の横幕掲示〉



〈いかのおすしティッシュ〉



〈12月防犯ちらし〉

- ・行事後は行事の振り返りや完成した横幕の披露を「防犯ちらし」で各家庭に配付した。

〈保護者から〉

- ・「親子で防犯について話す時間ができた。」「楽しく色塗りができて、話がはずんだ」と伝えてくれた方が何人もいた。

(3) 防犯活動を常時活動として取り入れる

- ・毎月防犯を意識してもらうために、防犯の日「0の日」を設定することで、気持ちを高めていく工夫ができた。
- ・青パトの活動を「0の日」を意識したものにした。
- ・活動の象徴に幟を掲げた。
- ・交通安全の立哨と共に意識付けをする。立哨指導時には必ず青パトで巡回した。
- ・中学生の登校時間に、立哨指導を行っていて、ヘルメットの着用や交通ルールを守ることにについて指導した。



〈防犯意識を高める横幕〉



〈防犯意識を高める幟〉

(4) 古くなった防犯看板を、新しい物に更新する

- ・古くなって誰も見ない、色が薄れて目立たない看板を新しい物に変更した。



〈防犯意識を高める看板〉

〈近所の人の一言〉

「目立つようになったね、防犯を意識しないといかんね」

(5) 防犯カメラの設置

自治区の防犯カメラは、防犯の目的でなく、不法投棄を抑止するためのものである。今回は、通勤や登下校でよく使う道や公園に防犯カメラを設置し、身の安全を守るための抑止力として活用した。

<p>4 成果と課題 及び今後の 取組み</p>	<p>〈成果〉</p> <p>(1) 青パトによる巡回、子供の見守り活動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の青パト活動の見直しをし、子供の登下校時刻や下校後公園で遊ぶ時間、帰宅をする夕方の時刻に合わせた巡回を実施した。 ・巡回していることが分かりやすいように、巡回車に反射材のついたマグネット反射板をはり巡回した。また、青パトについているマイクで帰宅を促すようにした。 ・見守り活動の強調日（交通安全「0」の日と同日）を決め、自治区会館前に、幟を掲げて意識を高めた。 <p>これらをすることで、以前に比べ自治区の役員や組長の防犯に対する意識は高まってきた。</p> <p>(2) 防犯啓発看板の設置や啓発チラシの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯啓発看板の設置場所を地域の公園に限定し、防犯に関する看板がどの程度あるかを調査した。→この結果、地域の公園には、防犯を意識した看板や掲示物が少ないことが分かった。 ・生活安全部（自治区の組織）と協力して、公園に看板（横幕）を設置し、防犯の意識を高めた。 ・啓発活動に参加した子供に、啓発グッズを配り、合い言葉の「いかのおすし」を発信した。 ・地域の回覧板で、豊田市や山之手地区での盗難被害のチラシを載せ、防犯の意識を高めた。 ・10月、12月に防犯ちらしを発行した。 <p>これらのことができたことによって、自治区の生活安全部の活動が広がり、意識の高まりが出てきた。</p> <p>(3) 標語募集による啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯の意識を高めるために、親子で一緒に取り組む活動をするのを考えた。（文化フェスタの活用） ・地域の行事に、防犯コーナーを設置し、防犯標語を募集した。 ・合い言葉を「いかのおすし」とし、幼児や小学校の低学年には塗り絵を通して親子で防犯について考えてもらい、小学生の中高学年には標語を考えてもらった。 ・塗り絵や標語は、行事の当日に提出してもらい、みんなに見えるように掲示した。また、行事の終わりに、もう一度全体に披露し、優秀標語を表彰した。優秀標語を横幕にして、公園に掲示し防犯について啓発した。 ・啓発グッズ「いかのおすし」が入った、鉛筆やノートなど配り、防犯に関心をもたせた。 <p>これらのことは、子供たちの防犯に対する意識の向上を期待できる。</p>
----------------------------------	---

グッズ（イカのホイッスル）を通して、「大きな音や声」を出す活動を、行事にできるとよい。

〈課題〉

- ・これらの活動を通して、青パト巡回の活動は、子供の登下校や帰宅時間を意識した時間帯へ変更していくことで、防犯活動の意識が高められることが分かった。しかし、冬期を向かえ、青パト巡回を積極的に運営していく人が少なくなっている。青パト巡回に参加する人集めが課題である。
- ・子供たちと一緒に活動することで親世代の防犯への意識付けが計られることが分かった。子ども会（小学生の会）や母の会（幼児の会）など縮小される中で、子供たちを巻き込みながら親世代の気持ちをいかにつかんでいくかが課題になる。
- ・行事や常時活動を行うには、運営費が必要になる。また、今回はこのような事業の協力を得て進められたが、同様に行うためには、地域活動の中で、予算を確保し、関心を高めて行く必要がある。

〈今後の取組み〉

今回このような有意義な事業に参加して、改めて防犯の意識を高めることが大切だと感じた。一層の成果を生むためには、成果で書いた（１）～（４）を継続的に実施していけるように努力したい。

防犯活動を自治区のイベントとして位置づけ、１年に一度はじっくりと考える機会を作るようにする。例えば、小学校低学年を中心に、防犯グッズ練習会『防犯ブザーを鳴らせてみよう』や『さけぼう、「たすけて～！」大声大会』、小学生の中学年対象に「交通安全教室、自転車の乗り方」など工夫したい。参加賞の中に防犯グッズを入れれば効果は増大する。



〈効果てきめん
「いかのおすし」グッズ〉

今回は、防犯の合い言葉を「いかのおすし」としたが、今後は「自分の身は自分で守る」とか愛知県が推奨している「つみきおに」のように毎年工夫していけるとよい。

また、子供たちに標語を募集し、優秀作品を横幕にした活動は、３年に１度の流れで、標語募集をして、横幕を更新していきたい。

次年度は、自治区の活動の中で予算化し、「自分の身は自分で守る」活動をしていきたい。

地域では小学校のPTAが無くなり、子供たちの登下校の見守りは、地域の「見守り隊」に大きな役割があると言える。青パトの活動と共に、子供たちの安全を確保できる活動へと広げていきたい。